

# 高知工科大学永国寺キャンパス前における江の口川の景観設計

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻  
No. 1160141 藤崎 美貴



図1. 完成イメージ（豊栄橋からの眺め）

## 1. 目的

2015年の3月において、本学の永国寺キャンパスが高知市永国寺町に竣工し、経済マネジメント学群及び、高知県立大学文化学部の拡充により、多くの学生が集う複数大学のキャンパスとなった。その新しい大学の北側は、高知市の中心部を流れる江の口川に面しているが、川底にはゴミが溜まり、護岸はコンクリート三面張りとなっており、河川環境が十分に整備されていない。この場所を整備することでキャンパスの魅力高めると共に、親水性を向上させることで、人々の水辺への関心を高め、水質の改善を促し、美しい景観形成を促すことを目的とする。

## 2. 現況調査

### 2.1. 水質調査

江の口川の現在の水質は、高知市の他の河川と比べても低く、主に上流部の生活排水が要因である。高知市下水道中期ビジョンにおいて、今後の江の口川の水質は25年後には格段に良くなるとの予測されている。

水質予測点	現況年次(H21年)	現況年次(H32年)	現況年次(H42年)
	水質レベル	水質レベル	水質レベル
落合橋(紅水川)	E	C	AA
落合橋(久万川)	B	AA	AA
三ノ世橋(神田川)	A	A	AA
廿代橋(江ノ口川)	C	C	AA
潮江橋(鏡川)	A	AA	AA

出典：江の口川をきれいにする取り組み  
表1. 河川水質将来予測



写真1. 現況写真

### 2.2. 交通量調査

キャンパスと川の間には道路があり、景観設計を行う上で、歩行者中心の道路とすべく交通調査を行った。調査日は、8/12（水）、8/23（日）、1/7（木）である。調査時間は、7:00～9:00、12:00～1:00、16:00～18:00であり、交通が多いと思われる朝、昼、夕に2時間ずつ計測した。

結果は図2に示す。バイクや自動車は少なく、自転車の交通量が多いことが分かる。それは、この道路の利用者がほぼ永国寺キャンパスの学生であるためと言える。

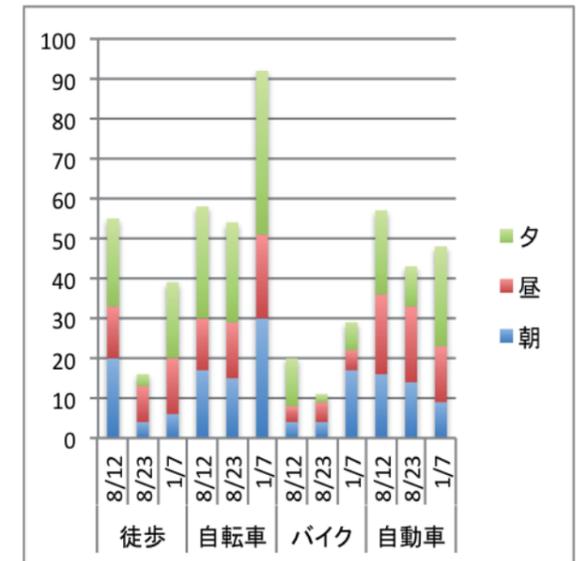


図1. 交通方法別交通量

### 2.3. 河川の現況断面・水位

大学前の河川の護岸は、パラペットのある急傾斜護岸である。河川内に降りるための階段等はなく、親水性は皆無である。また、水位に関しては下流部であるため潮の影響を受ける。満潮・干潮時の水位は断面図に示す。川の流れは緩やかである。

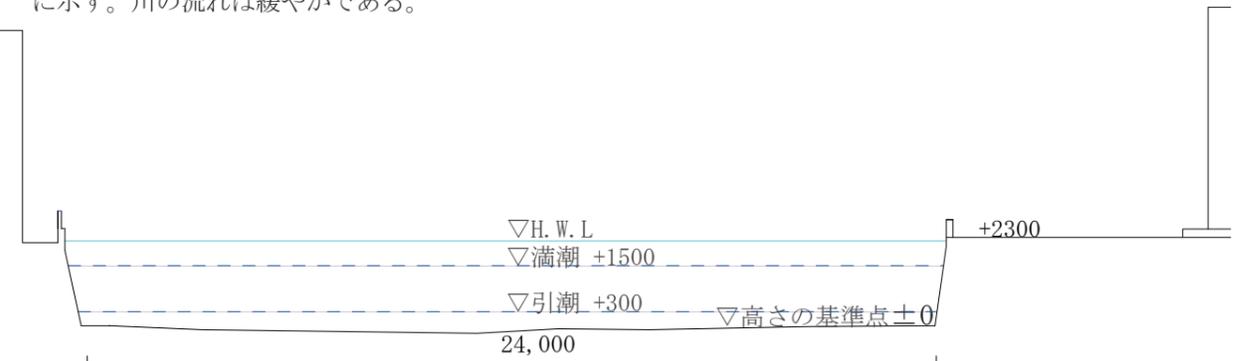


図2. 現況護岸断面図 S=1/200

## 3. 基本方針

以下の5つの項目を考慮する。

- ①護岸部の安全性など治水面を考慮する。
- ②水辺に近づきやすくし、親水性・滞留性を向上させる。
- ③自動車の交通量が多くなかったため、歩行者、自転車などの交通とする。ただし、東側の店舗前は自動車の出し入れが必要となってくるため、自動車の走行を許容する。
- ④かつての城下町であり、大学の前であるといった土地の特徴や歴史性にあったものとする。
- ⑤生物や水質等の環境面に配慮する。

#### 4. デザイン概要

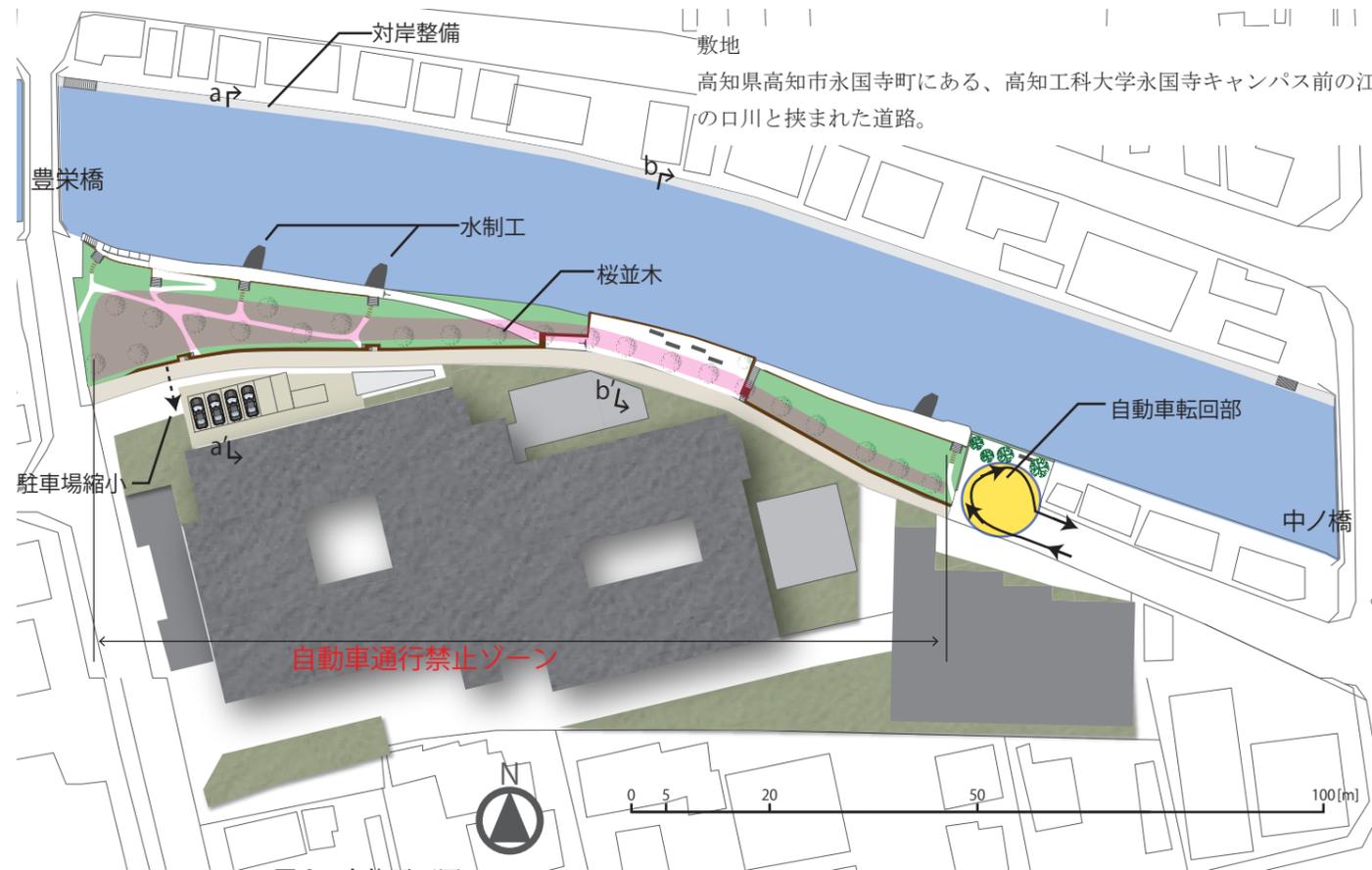


図3. 全体平面図

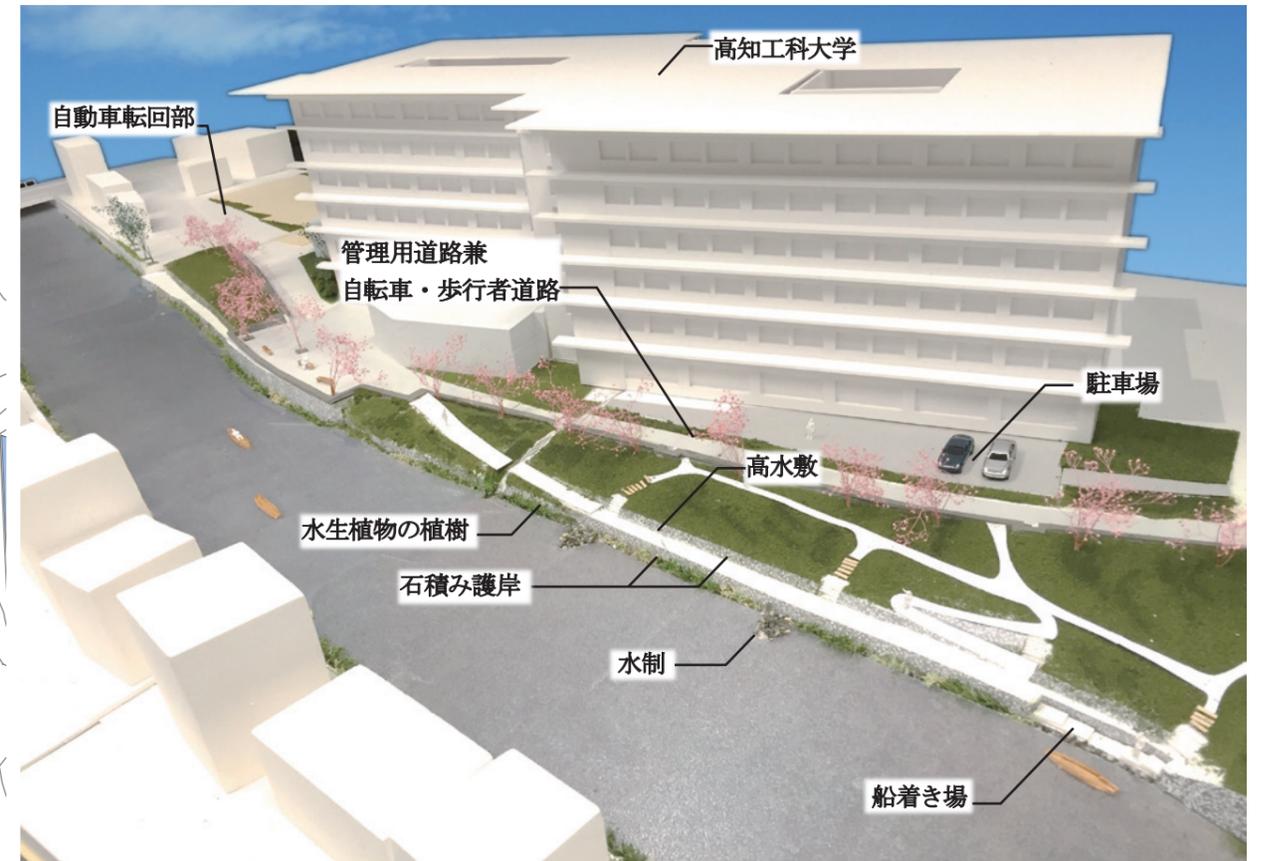


図4. 模型写真

水際線は、現況の真っ直ぐな部分を曲線にした。水際の曲がり部分や階段・スロープの下には水制工を設置し、緩やかな流れと親水空間を生み出す。また、敷地東側の大学の駐車場を縮小させ広いスペースを確保した。護岸は高水敷のある芝生の緩傾斜となり、パラペットの位置を後退させることで、緩やかな傾斜を可能とした。街路樹には桜並木を配置し、人々の往来を期待する。



図5. パラペットイメージ

#### パラペット

パラペットは、護岸部と道路の境界に設置することとし、ベンチとしても利用が可能である。キャンパス前の人々に休憩スペースとなり、照明機能も複合させることで道路の魅力上げる。

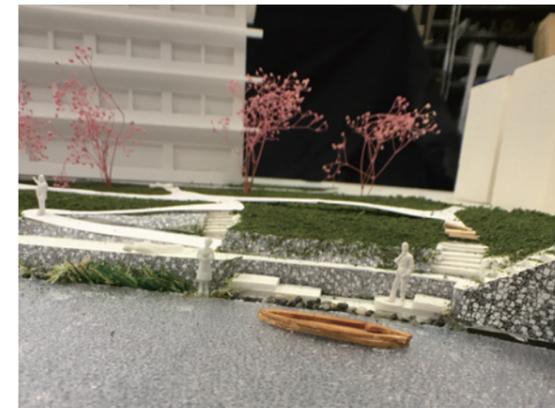


図6. 船着き場

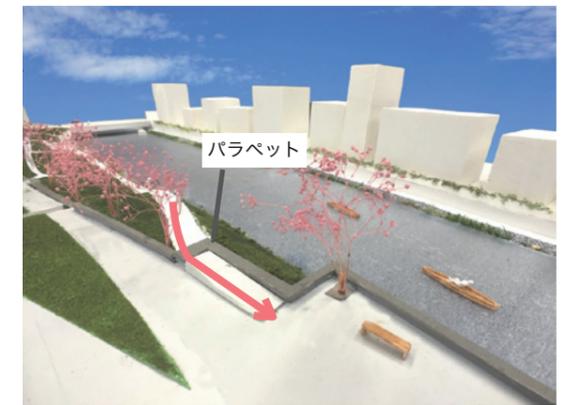


図7. スロープとパラペットの境界

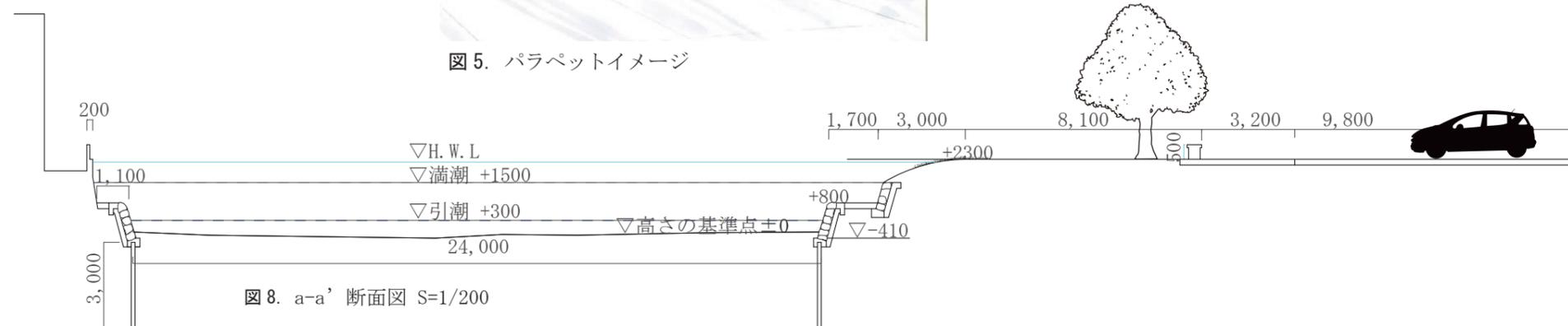


図8. a-a' 断面図 S=1/200

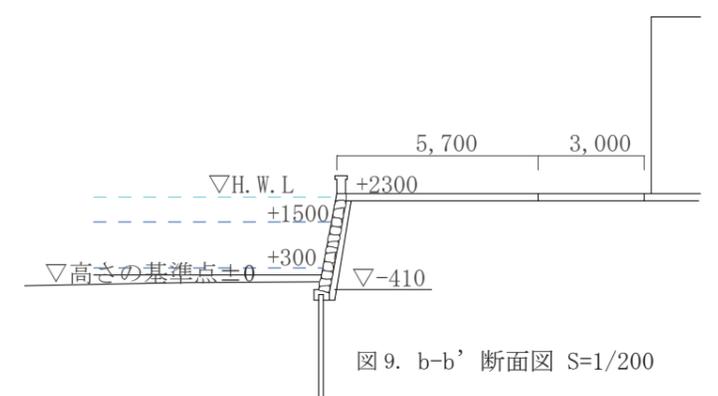


図9. b-b' 断面図 S=1/200